



大切な情報が届くように「つい手にとるような、ついページをめくりたくなるような。紙面づくりを心掛けています。

住民のみなさんに親しまれる一番身近な情報発信紙へ

行政情報やみなさんの姿など、町の動きをより早く、より正確に、そして、より楽しく見ていただけるよう、紙面の充実を図っている広報ふくち。これからも、この町を誇れるような、もっと好きになるような、みなさんの記憶に残るような「今」を伝えていきたいと思っています。

「共感を呼び、自分たちの町を良くしよう」というような行動につながるものが期待されるからです。郷土に誇りを持ち、もっと町を好きになってもいい。広報ふくちはみなさんとともに紙面に息を吹き込みたいと思っています。

まちづくりと広報

住みやすくして活気あふれる町でありたい。そう願う心は行政や企業、住民のみなさんの共通意識だと思いが、いざ、実行するととなると足並みが揃わないのが実情です。住んでいる人の数だけ考え方が違うからです。では、個が集い、全体として力を発

揮するためにはどうすれば良いのでしょうか。

広報ふくちは、その多種多様な考え方の波長を近づけることができる重要な媒体だと考えています。広報紙に記事を掲載することは、初めは静かな水面に小石を落とすようなものかもしれません。しかし、水面に波紋が広がるように、その輪が少しずつでも広がれば、やがて大きな原動力となる可能性が生まれるはずですよ。

このまちの一人ひとりが、自分たちの町を良くしようと同じ方向を向くことを願い、これからも広報ふくちは真剣に地域と向きあい、このまちの未来を想い描き、創造して



中川さん宅(赤池)では、親子で広報を楽しむ時間を設け、知人を見つけては会話を弾ませています。

くことを使命として取り組んでいきます。そのためにはみなさんの声が欠かせません。意見や感想があれば、ぜひお寄せください。広報紙の新たな一面として生かしていきます。

副役場総務課 広報・広聴係
022-10555

スマートフォンやパソコンが普及し、インターネットを通じていつでも瞬時に世界中の情報が手に入る現代。町でもホームページを運用し、イベントのお知らせや町の観光情報などを発信しています。しかし、インターネットは、情報を知りたいと思っただけに、その恩恵を受けることができません。その点、広報紙は行政組長を通じて直接家庭に配られるので、町政にあまり関心がない人でも、何気なく手にとって町の施策や方針などが伝わる可能性があります。みなさんに有益な情報を正確に、そして平等に届けることができるのは、やはり広報紙しかありません。

広報ふくちが目指すもの

町の情報を伝えるときに一番注意しなければならぬことは行政からの一方通行にならないこと。難しい言葉を並べても、みなさんの心に響かないことは明らかだからです。そこで重要になるのが、町の主役である住民のみなさんです。実際に町に住むみなさんの笑顔やがんばっている姿、率直な意見を特集や町の話題で紹介することで、読者の目を引き、

もう一つの広報!

広報ふくちを声で支えるボランティアグループ



朗読の先生のもとで勉強会などを行い、音訳技術向上のために日々努力を重ねている会員。

視覚障がい者に贈る愛を込めたメッセージ

朗読ボランティア「青い鳥」

朗読ボランティア「青い鳥」では、目が不自由な人のために、写真やグラフィックなども含めて声だけで広報紙の内容をCDに収録。19年間も活動を続けています。「目で見れば一目瞭然で大変でも、一人でも声の広報紙を望む人がいれば、この活動はやめません。広報紙は全町民が対象で、大切な町の情報を手に入れる必需品だからです」と笑みをこぼして語ります。

声の広報紙を作成

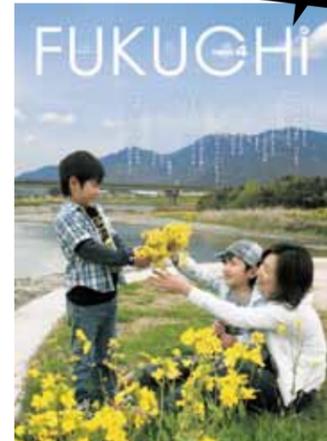


数々の表彰を受ける「青い鳥」の会員。利用者からの感謝の言葉が一番励みになるそうです。

青い鳥の声によって、町のいま、と情景がより響くことができます。

あのご家族は今!

創刊号の表紙を飾ったご家族が再登場!



記念すべき創刊号の表紙写真は、彦山川・中元寺川合流地点で福智山を背景に撮影。新生・福智町を象徴するかのよう一枚です。

みなさんと一緒に作る広報紙へ

住民参画型の紙面づくり

100号記念に再登場



左から、現在の頭栄郎くん・有佳里さん・寛教くん。

創刊号の表紙を飾った、吉田有佳里さん・頭栄郎くん・寛教くん親子(金田)。あれから8年が経ち、広報紙が100号に到達した記念に、再登場していただきました。当時6歳だった頭栄郎くんは中学2年生、5歳だった寛教くんは中学1年生になり、2人ともプロサッカー選手を夢見る立派な少年に成長しています。「私たちが掲載された広報紙を見て、すごく良かった」と周囲から言われたことを覚えています。以来、広報紙は欠かさず読んでいますよ」と有佳里さんは話し、再出演を快く受諾していただきました。

これからも、町の主役であるみなさんに登場していただくことで、郷土に愛着や誇りを持っていただけるよう心掛けていきます。